

# 和歌山県立はまゆう支援学校・南紀支援学校 合同学校運営協議会

令和4年度 第3回 【2月16日】 10:00～11:30

出席者：委員12名 傍聴者 7名

## 会議の流れ

- ① 開会の挨拶 県立南紀支援学校石本校長より
- ② 配付資料等の確認
- ③ 令和4年度学校評価について（南紀支援学校、はまゆう支援学校）
- ④ 令和5年度南紀はまゆう支援学校開校に向けて（説明）
- ⑤ 今後の学校運営協議会の進め方について（説明、協議）
- ⑥ 意見交換
- ⑦ その他
- ⑧ 閉会の挨拶 県立はまゆう支援学校小原校長より

## 概要

### 【議論した主な内容】

- ③ 南紀支援学校、はまゆう支援学校の令和4年度学校評価について、石本校長、小原校長より説明を行った。  
〈主な内容は次のとおり〉
  - ・令和4年度の学校アンケート結果を資料を提示しながら説明を行った。
  - ・令和4年度の学校評価について、アンケートの結果から考察を行った。
- ④ 令和5年度南紀はまゆう支援学校開校に向けて、学校運営や新しい校歌校章、閉校式について、両校長より説明を行った。（説明）  
〈主な内容は次のとおり〉
  - 学校運営について
    - ・現在、第2期工事（北棟、体育館、作業棟、プールなど）が着工中。
    - ・令和5年度は、令和5年12月まで、第1校舎（南紀支援学校校舎）には、高等部（知的障害教育部門、肢体不自由障害部門、聴覚障害教育部門）と小学部、中学部の肢体不自由障害部門の児童生徒、第2校舎（はまゆう支援学校校舎）には、小学部、中学部の知的障害教育部門の児童生徒が在籍する2校運営を行う。
    - ・令和5年度のスクールバス運行について、全9台のスクールバスを4台と5台に分けて、ロータリー形式での乗降を検討している。
  - 新校歌、校章について
    - ・資料を元に、校歌校章への願い、思い、経緯などの説明を行った。
  - 閉校式について
    - ・南紀支援学校閉校式 令和5年3月24日（金）10:00～
    - ・はまゆう支援学校閉校式 令和5年3月24日（金）10:00～
- ⑤ 今後の学校運営協議会の進め方について、石本校長より説明を行った。

〈主な内容は次のとおり〉

- 学校運営協議会の目的
  - ・学校長が作成した学校運営方針の承諾を通じて学校課題を共有するとともに学校運営に関する必要な支援を協議し、学校と地域、関係期間等が連携した取組の推進及び賛国課題の解決に資する。
- 学校課題に係る分野の設定
  - ・研修推進支援分野
  - ・キャリア教育支援分野
  - ・学校安全分野
  - ・地域連携分野
- 年間計画（計4回を計画）
  - ・第1回 学校運営方針の承諾、各分野の設定、年間計画の確認等
  - ・第2回 学校支援について
  - ・第3回 学校支援について
  - ・第4回 学校評価及び次年度の課題、改善対策について

⑥ 意見交換

- 相談支援の立場から、卒業後の進路について、これから学校とのやりとりが多くなる。子どもの能力や特性だけで卒業後の進路を考えるとご家庭や家庭支援が必要なご家庭への生活支援へのアプローチが得意分野の一つなので、在学中から先生を通じて家庭との関係を構築し、卒業後の進路先においても応援できるよというリアルな付き合いが始められるような仕掛けをしていきたいので、今後ともお声かけ、ご協力をお願いしたい。
- 来年度（令和5年度）は、動きに制限のある重度の子どもに対してICT機器を活用して、音楽を作る、合奏をする、絵を描くなど和歌山大学システム工学部や関わりのあるIT企業と連携した取組を提供できればと考えている。また、教職員、保護者向けにICTやクリエイティブな方向性についての研修を提案、実施できればと考えている。特に、ICT分野については、南紀支援、はまゆう支援にとって相性がいいと思うのでフル活用していただければと思っている。
- 令和5年4月からの展望を伺い、いよいよだなと感じている。  
学校教育、社会教育を含めた生涯学習という大きなくりの中でいかに地域と共に育てる（共育）取組を実践していけるかを考えていかねばならない。また、新型コロナウイルス感染症の影響で何ができて、何ができなかったかという総括を行う時期にも来てるのではないかと考える。地域連携の観点からも子どもにとってこういうところが必要ではないかという点を学校としてアウトプットしていただければと考える。新型コロナウイルス感染症の影響でここ3年間は活動できなかったが、今後は、いろいろなツールを活用した情報発信と地域を広く捉えているような分野で関わっていければと考える。
- 南紀はまゆう支援学校という校名が正式に決定したが、単に南紀支援学校とはまゆう支援学校が統合したとか、県下の支援学校が11校から10校になったという話ではなく、保護者や子どもの思いが詰まって令和5年4月の開校につながっているということを確認し合うことが大事である。
- これまでの経験から、校歌、校章の由来、コンセプトは必ず次に伝えていってほしい。
- 学校の応援団として学校運営協議会があるのであれば、学校の困っているところ、しんどいところ、苦勞しているところをもっと出してもいいのではないかと考える。学校課題を共有することで、委員としての使命がより果たせるのではないかと考える。
- 今までは、支援学校の児童生徒に対して、「してあげる」ことが多かったが、皆さんの協力もあって、これからは、子どもたちが私たちに教えてくれる（ICT機器の活用法等）ことが可能な世の中になっていくと感じている。新型コロ

ナウウイルス感染症の影響による生活様式の変更の中で、一つよかったのは、少しの支援があれば、家でオンラインでのやりとりができるようになった。そのような設定の仕方や操作の仕方など、子どもから教わることができる時代になってきたのだと思うと楽しみになってきた。

- 学校運営協議会委員として学校と関わらしてもらうまでは、学校のことはほとんど知らなかった。情報発信はされてきたと思うが、残念なことに、それ以上に私たちは、その情報を知らずにこの土地で過ごしてきたと思う。新しい学校ができて、住民の方も新しい学校ができてよかったと思えるようなことがたくさん発信できればいいと思う。